

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。こども動物園には、たくさんの小動物が飼育され、皆さんと動物と命どうしのふれあいが体験できます。自分の担当のモルちゃんたちも「食肉用」として世界中に広まった動物です。そして、意外と役に立つのも「こども動物園」です。さて、今回は、「いつも立っている動物」についてです。

教科書や資料集を見ると草食動物というとシマウマやレイヨウなど飼ったことのない動物ばかりが例として挙げられています。たしかに円山動物園でも「グラントシマウマ」と「エランド」を熱帯動物館で見ることができます。でも、柵の向こうで遠目にというのが実際です。ところが草食動物を見る絶好のスポットがあったのです。そこは、なんと「こども動物園」なのです。雑誌「じゃらん」(＝まだ、読まないかな?)にものった「円山のアイドル」コリデール(ヒツジの種類)の「おやじ」くんや「トカラヤギ」などが自由に皆さんの前を歩きます。目の前で見えるばかりではなく、そっと近づいてみるとさわって観察することもできますよ。でもここでお願い。「動物のいやがることは、できるだけさけてください。」いやがることを繰り返すと動物がいうことを効かなくなるのです。

ヤギやヒツジなどの草食動物は、立ったままエサをとります。栄養分のうすい草から十分な栄養確保するため、多くの草を食べること、常に肉食動物から攻撃される危険を避けるために歩き回る必要があるからです。実は草食動物はものすごい大食らいなのです。今は生草の季節なので、なおさらた

くさんの草を食べて

います。そして、食べ終わって休んでいるように見えるときにも「もぐもぐ」させています。そう、草は消化しにくいのです。ちょうど段ボール箱に梱包されているように栄養分が固い箱の中にあるのです。ここから栄養分を取り出すしくみがあったのですね。

(偶蹄目 ウシ科、キリン科)



ひづめをもつ動物

動物園では、いつも横たわっている肉食動物に対して草食動物は動きがあります。でも、野生の動物はいつえさがあったかわからないので常に「エコ生活」をして無駄な動きがないのは肉食動物と同じです。ちがうところは、常に肉食動物の目にさらされていることです。



同じように後ろ脚のつくりに注目してください。自分の脚と比べてみます。かかと、ひざ、股関節は、トカラヤギのどこにあたるでしょうか。ヒントは曲がっている場所とその向きです。次に接地している部分を見てみましょう。こちらは目の前で手にとって観察することができます。肉食動物と似た立ち方になるはずですが、でもおおきな違いはどこですか。



前号でも紹介したライオン「ジェスパ」の写真、

「よく、撮ったよなあ！」という三原キーパーのつぶやき。密かなスクープのようです。ネコ科のアドバ

イスは、三浦キーパーからの情報です。じっくり観察するこ



とで見えるものがいっぱいあるはずですが、「生徒手帳を見せるだけ」の特権もあと1年9ヶ月、無料で見ることができる期間を有効に使ってほしいです。

では、また。